

経営比較分析表（平成29年度決算）

栃木県 岡本台病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	精神科病院	精神病院	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	4	-	-	臨
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
1,985,738	13,248	非該当	15:1	

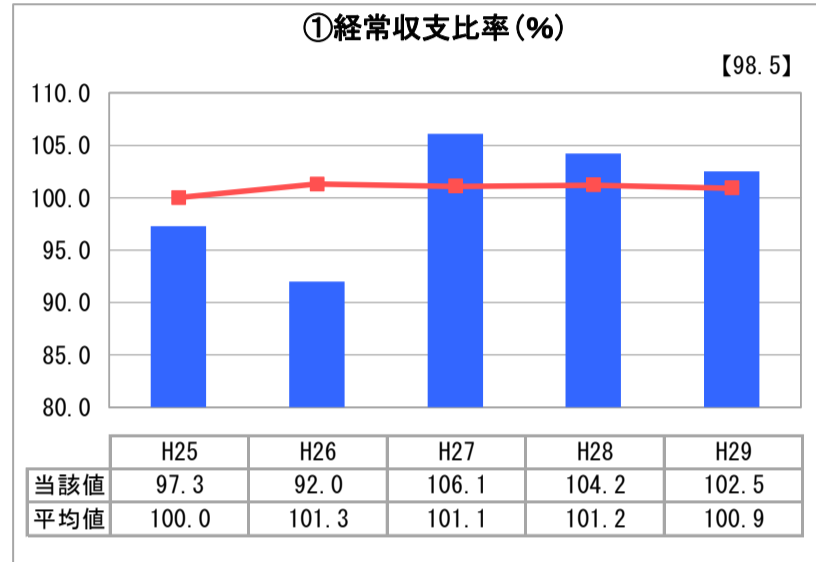
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

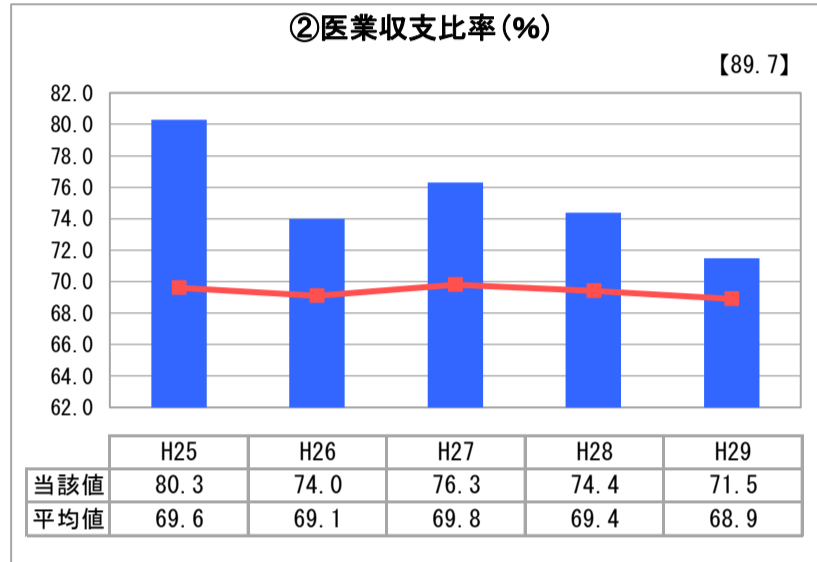
許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
-	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
221	-	221
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
-	-	-

グラフ凡例	
■	当該病院値（当該値）
—	類似病院平均値（平均値）
【】	平成29年度全国平均

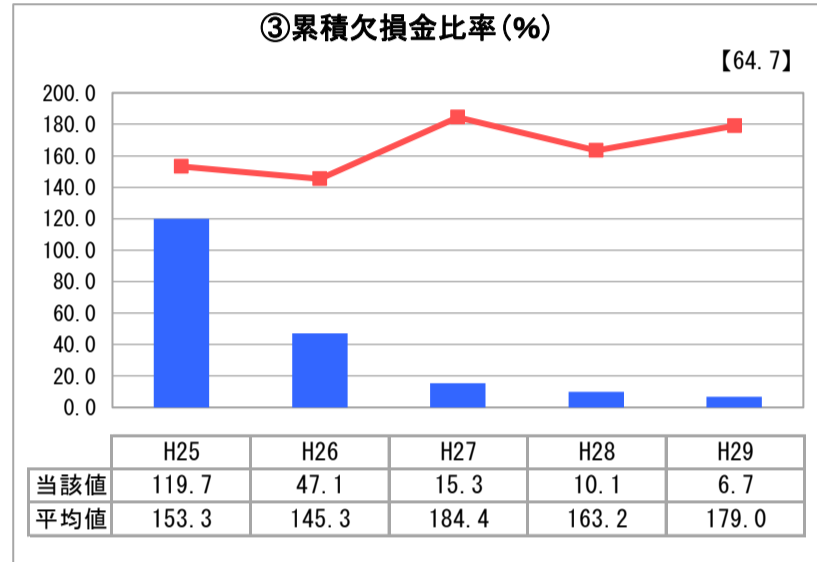
1. 経営の健全性・効率性



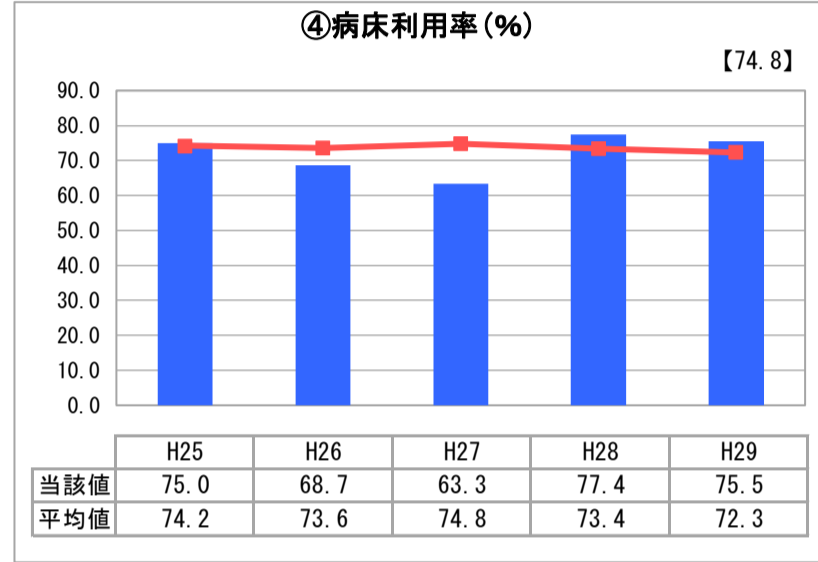
「経常損益」



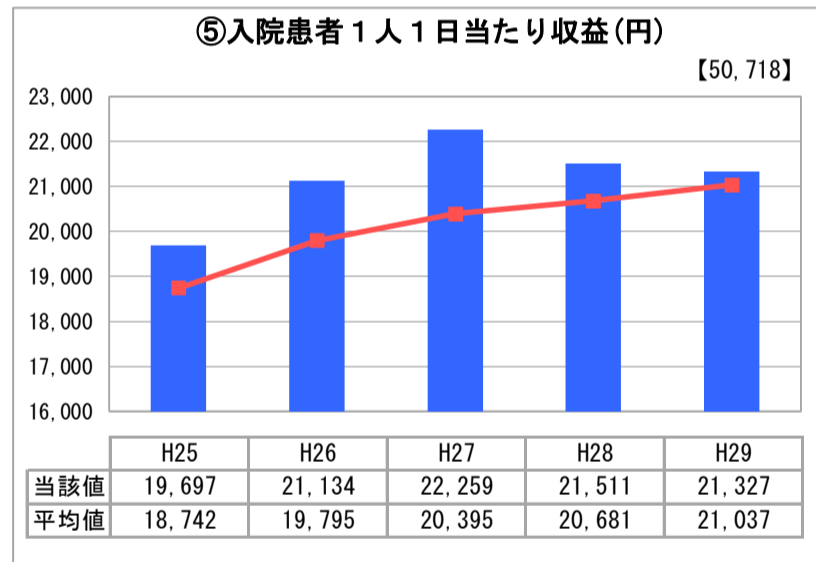
「医業損益」



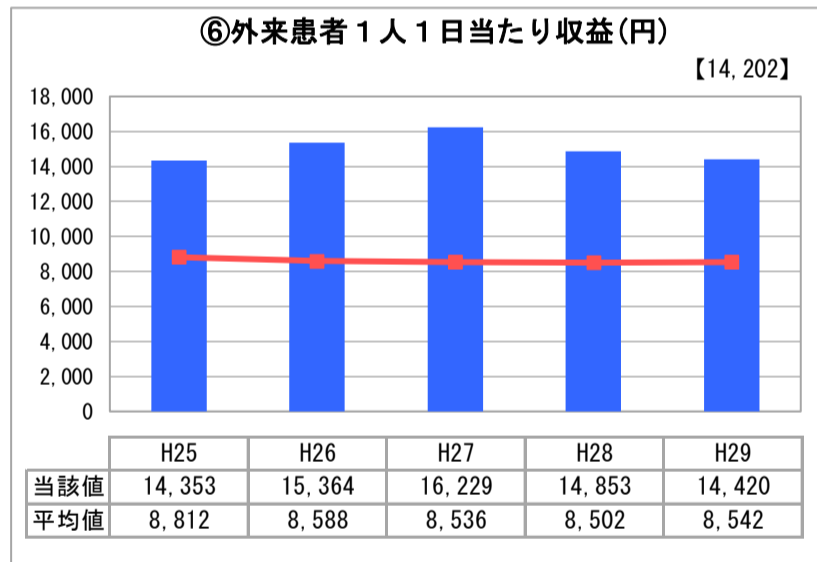
「累積欠損」



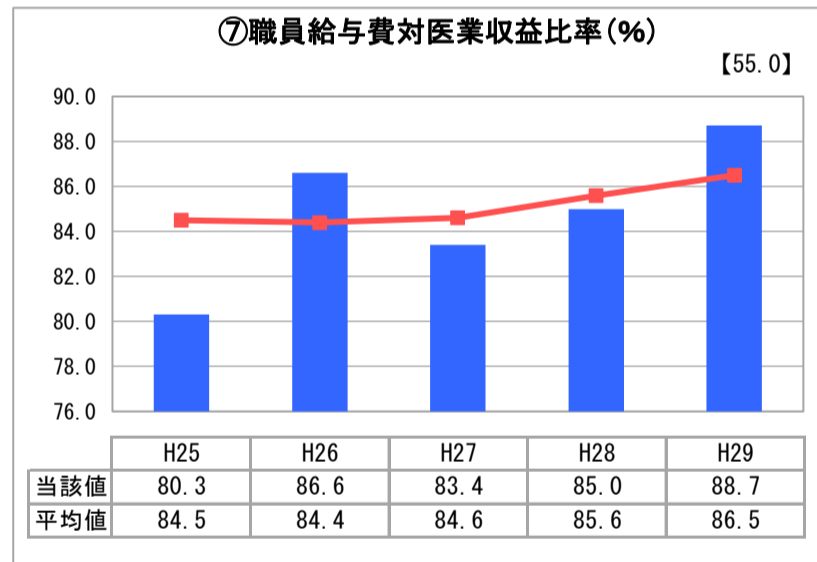
「施設の効率性」



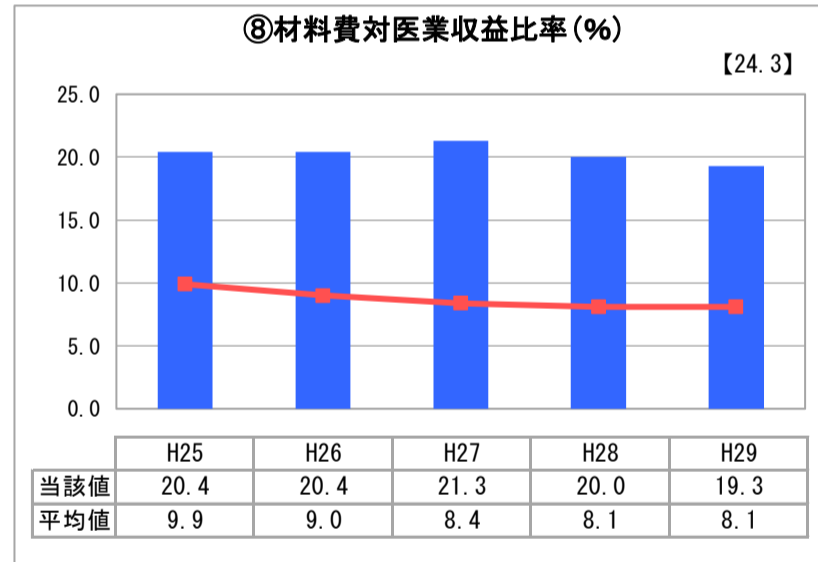
「収益の効率性①」



「収益の効率性②」

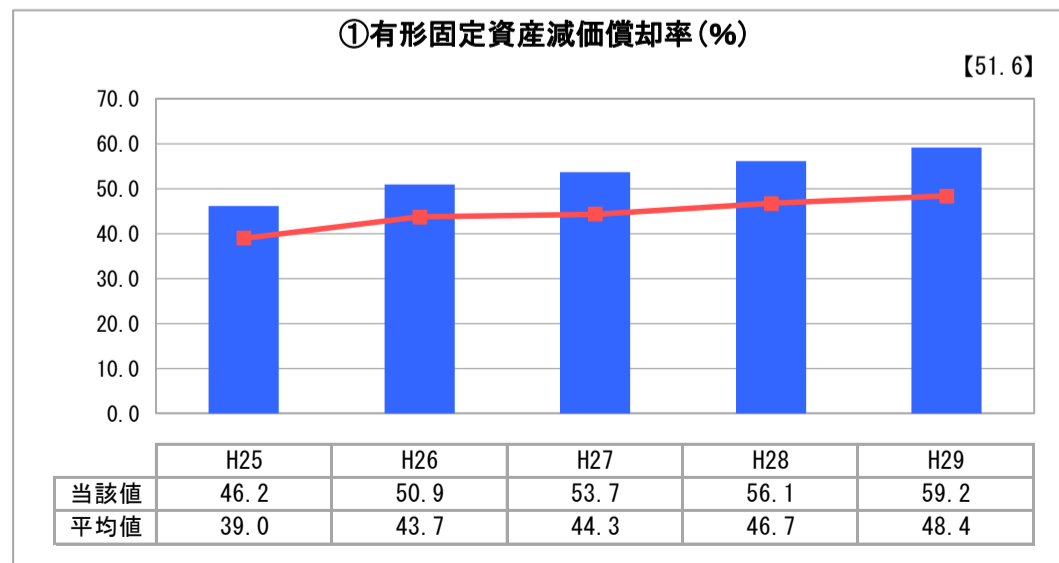


「費用の効率性①」

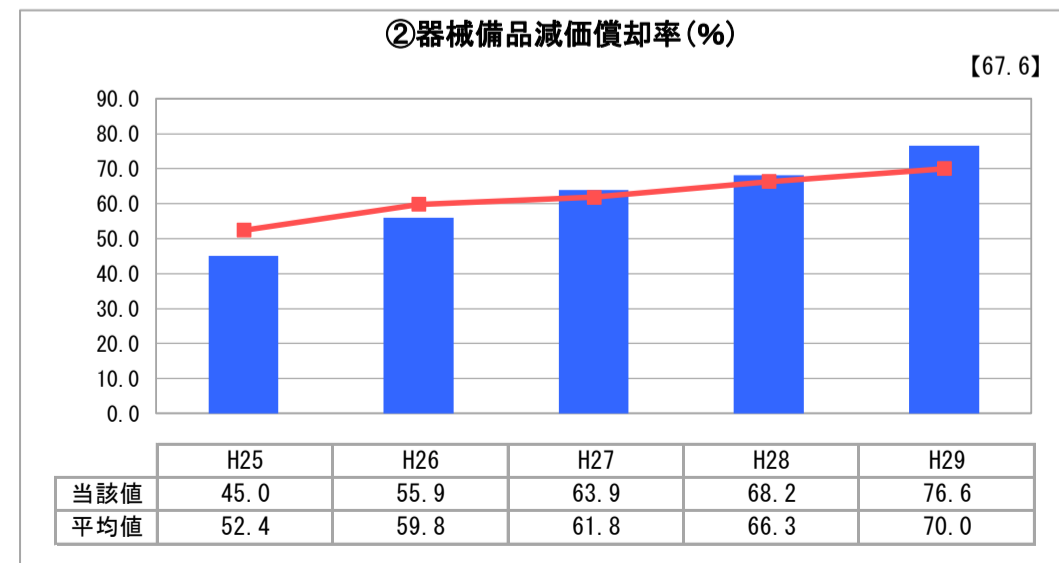


「費用の効率性②」

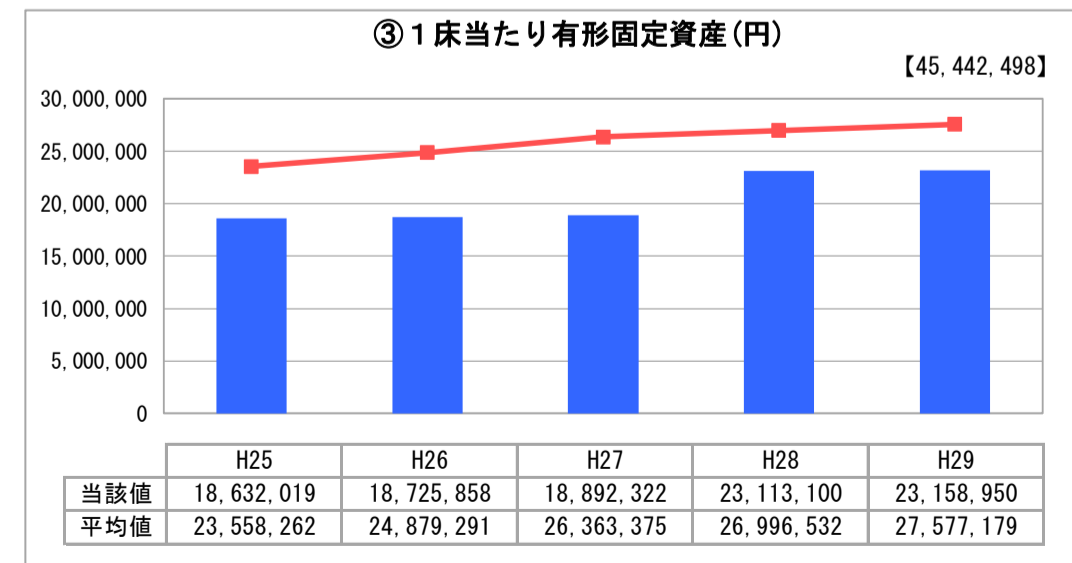
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「器械備品の減価償却の状況」



「建設投資の状況」

I 地域において担っている役割

当院は、精神科緊急及び救急医療、アルコール・薬物依存症医療、医療観察法医療など、精神疾患に係る高度・専門の医療を担う県の基幹病院としての役割を担っている。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ① 経常収支比率
平成27年度以降、100%を上回っている。
- ② 医業収支比率
各年度とも類似病院の平均を上回っている。
- ③ 累積欠損金比率
経営改善により低下傾向にある。
- ④ 病床利用率
平成26年度及び27年度は、70%を下回ったが、平成28年度以降は改善している。
- ⑤ ⑥ 患者1人1日あたり収益
患者単価は、各年度とも類似病院の平均を上回っている。
- ⑧ 材料費対医業収益比率
類似病院の平均を上回っている。後発医薬品の積極的な導入により、更なる経費の見直しを図っている。

2. 老朽化の状況について

- ① 有形固定資産減価償却率、② 器械備品減価償却率
老朽化は進行しており、類似病院の平均を上回っているが、定期的な設備等点検の結果に基づき計画的に更新を実施し、適切な維持管理に努めている。
- ③ 1床あたり有形固定資産
建築年数の経過に伴い、類似病院の平均を下回っている。

全体総括

類似病院に比べ、医業収支比率や病床利用率等の経営状況は良好であるため、経営の健全性は確保されている。その一方で、材料費対医業収益比率が類似病院と比較高い水準で推移していることから、費用の削減に取り組む必要がある。引き続き、経営改革プランに基づき、経営の健全化に取り組むとともに、地方独立行政法人化の検討を進めていく。

※ 「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

経営比較分析表（平成29年度決算）

栃木県 とちぎリハビリテーションセンター

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	50床以上～100床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	13	-	-	-
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
1,985,738	13,664	非該当	15:1	

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

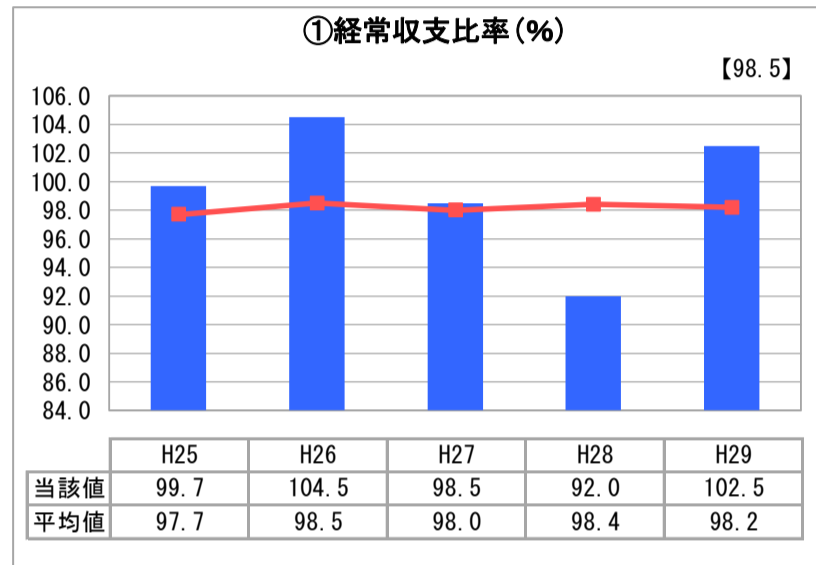
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
80	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	80
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
80	-	80

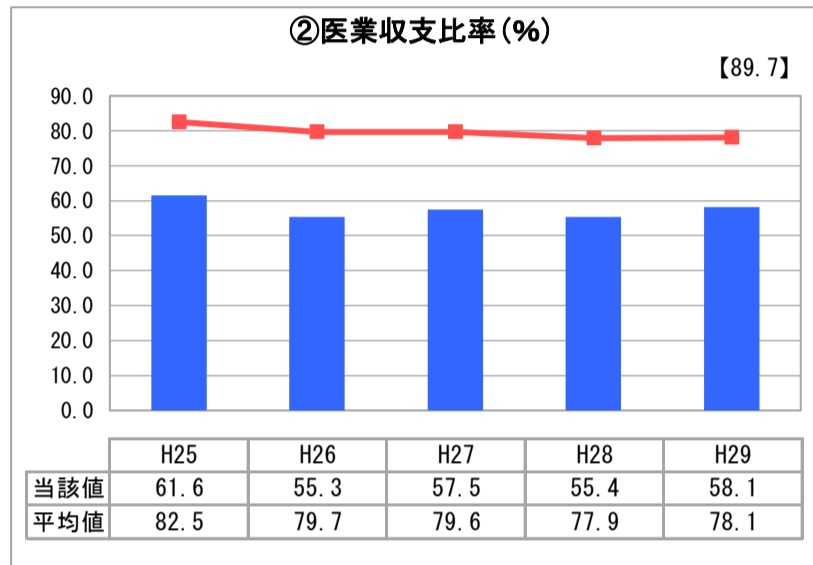
グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 平成29年度全国平均

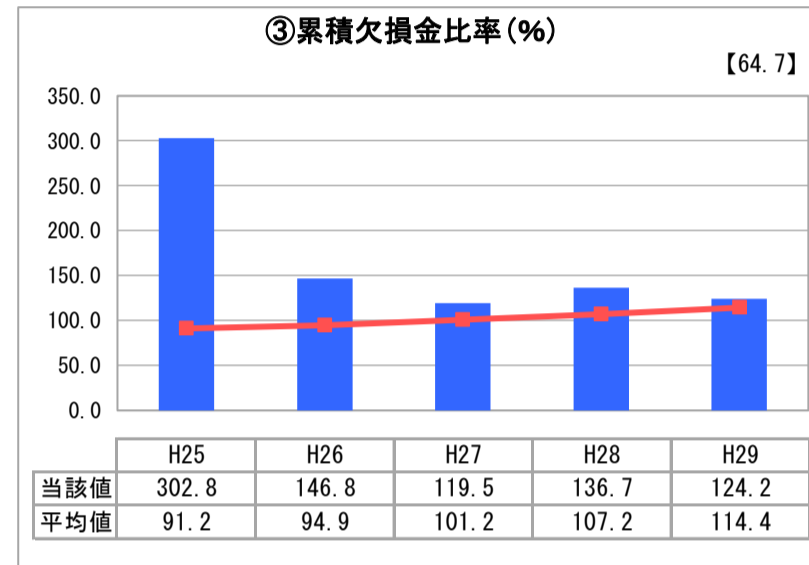
1. 経営の健全性・効率性



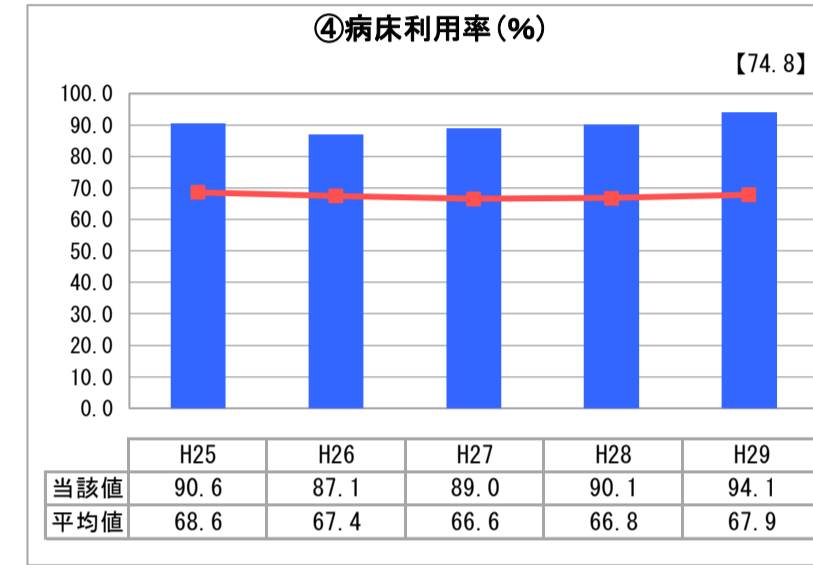
「経常損益」



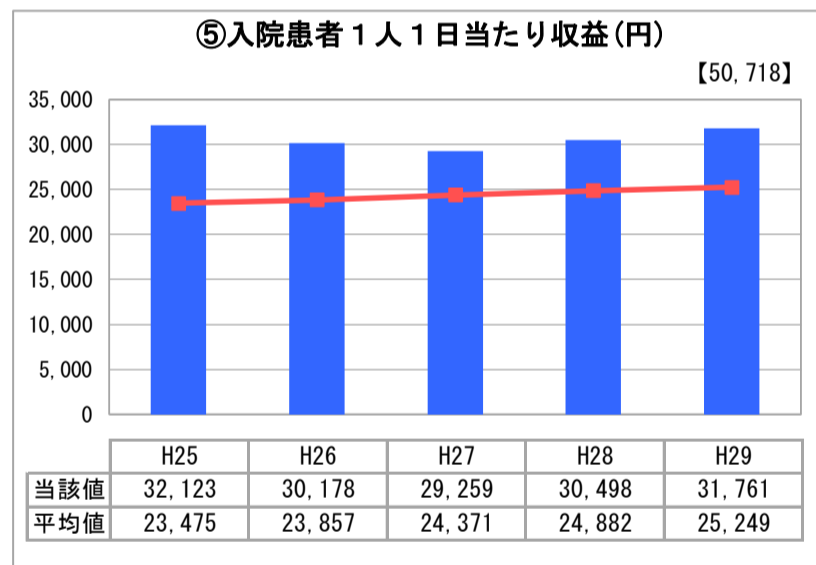
「医業損益」



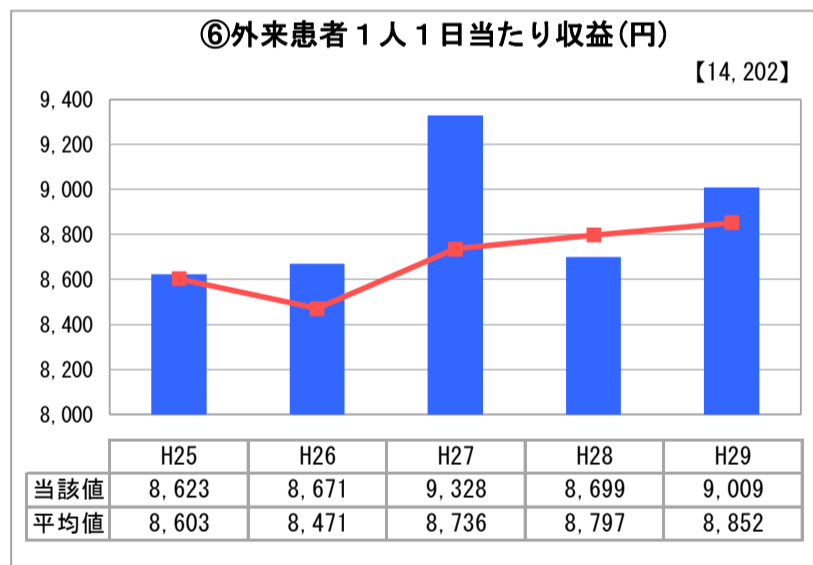
「累積欠損」



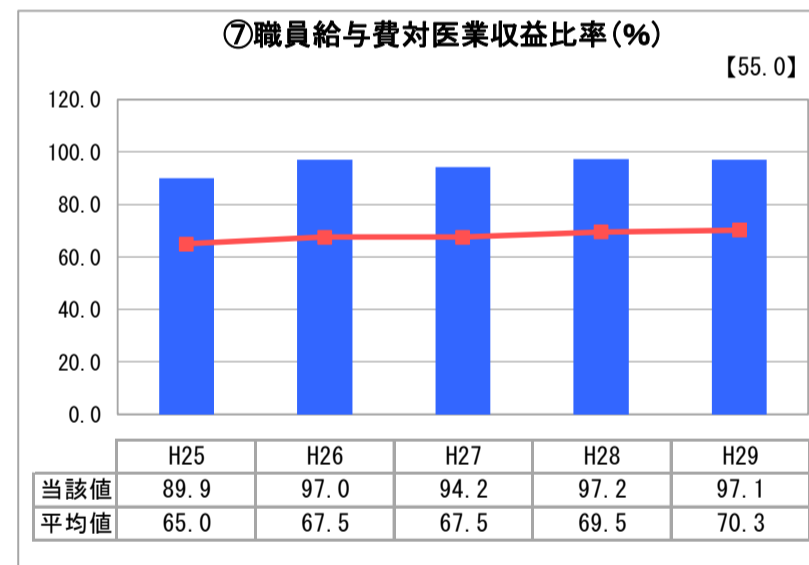
「施設の効率性」



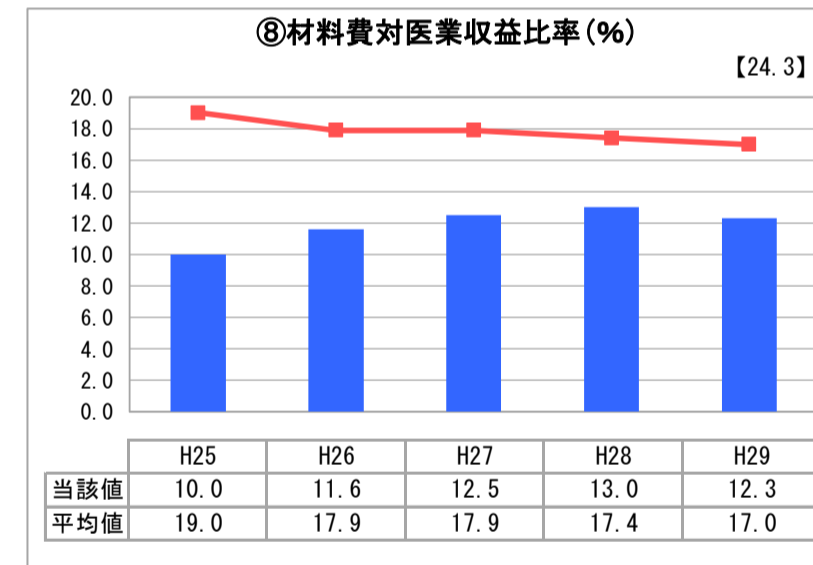
「収益の効率性①」



「収益の効率性②」

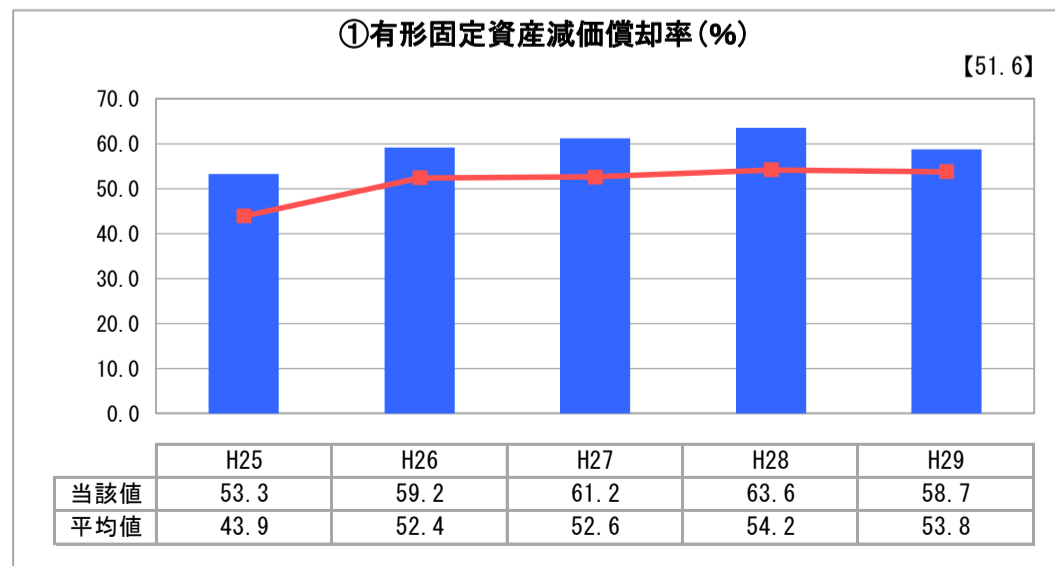


「費用の効率性①」

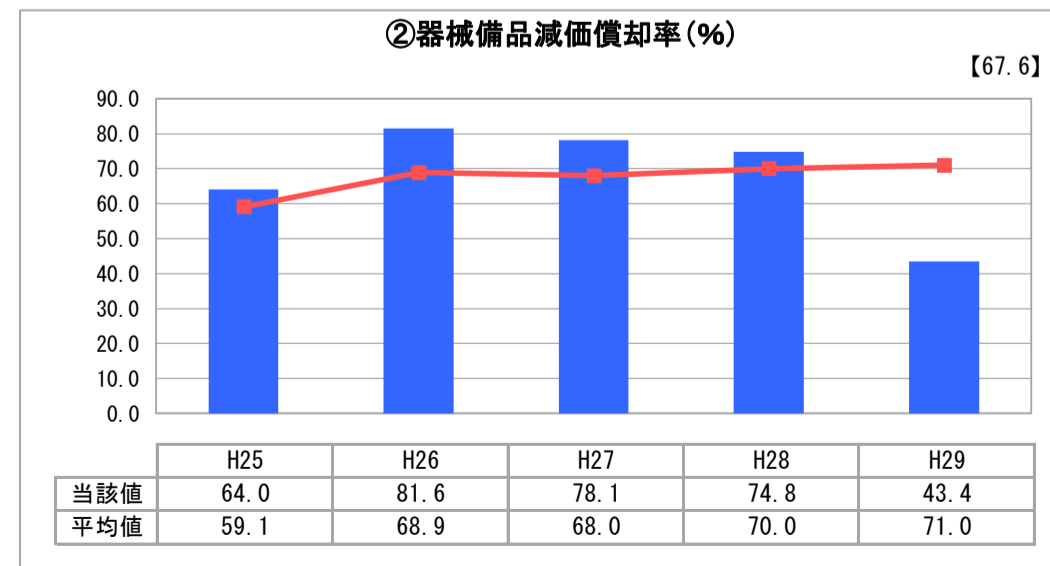


「費用の効率性②」

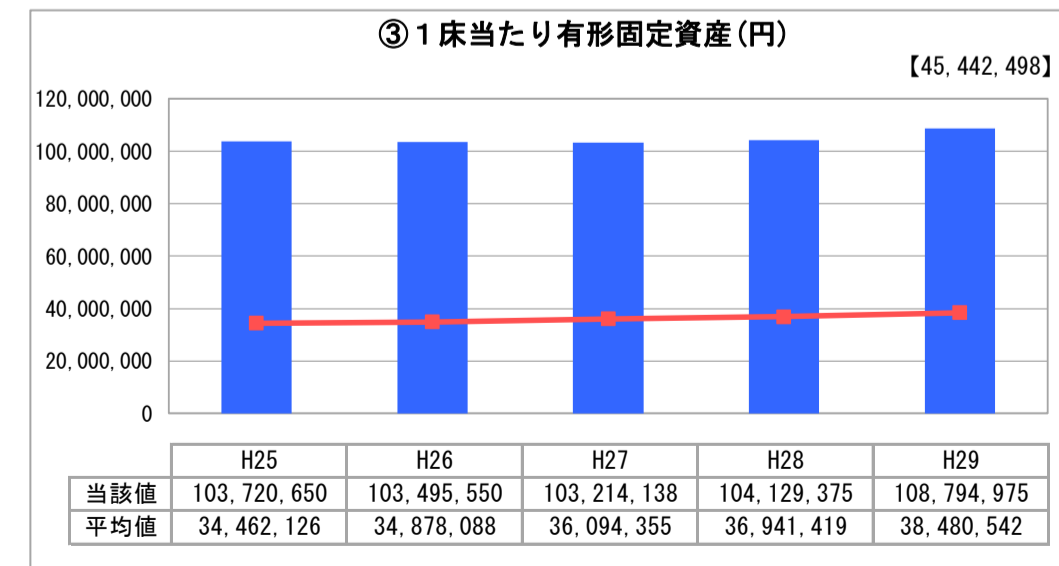
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「器械備品の減価償却の状況」



「建設投資の状況」

I 地域において担っている役割

当センターは、心身に障害のある乳幼児から高齢者までのあらゆる年齢層の県民に対し、質の高い総合的なリハビリテーションを安定的に提供するとともに、県内における医療及び福祉の向上を図るなど、公的使命を果たしながら心身に障害のある県民の自立と社会参加を促進する役割を担っている。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率、② 医業収支比率
一般会計からの負担金の増等により、平成29年度の経常収支比率は100%を上回ったが、医業収支比率は類似病院の平均を下回っているため、引き続き経営改善に取り組む必要がある。

③ 累積欠損金比率
経常収支が黒字化したことにより低下した。

④ 病床利用率
類似病院に比べ、高水準を維持している。平成29年度は他の医療機関との連携を図ったこと等により、年間入院患者数が過去最高となった。

⑤ ⑥ 患者1人1日あたり収益
平成28年度は診療報酬改定等の影響により外来患者単価が低下したが、平成29年度は類似病院の平均を上回っている。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率
老朽化が進行して、類似病院の平均を上回っているが、平成26年度から定期的な設備等点検の結果に基づき、計画的な更新を実施している。

② 器械備品減価償却率
平成30年度に増床するため、器械備品を新たに整備したことにより、器械備品減価償却率は大幅に低下した。

③ 1床当たり有形固定資産
現在、類似病院の平均を上回っているが、平成30年度に増床するため、低下する見込みである。

全体総括

例年、病床利用率は類似病院に比べ高水準を維持しており、入院収益は良好である一方で、医業収支比率は類似病院の平均を下回っている。

平成29年度は、平成30年度の地方独立行政法人化及び増床の準備により、職員給与費や委託料が増加してしまい、医業収支を大幅に改善することはできなかったが、平成30年度以降、新たに整備した病床で、今後見込まれる回復期病床の需要増を的確に取り込むことで、医業収支の改善に努める。

また、地方独立行政法人の特長を活かし、随時採用等により医療スタッフを確実に確保することで、収益性の高い病院運営に努める。

※ 「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。

経営比較分析表（平成29年度決算）

栃木県地方独立行政法人栃木県立がんセンター 栃木県立がんセンター

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
地方独立行政法人	病院事業	一般病院	200床以上～300床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	31	対象	I ガ	が
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
-	40,068	非該当	7：1	

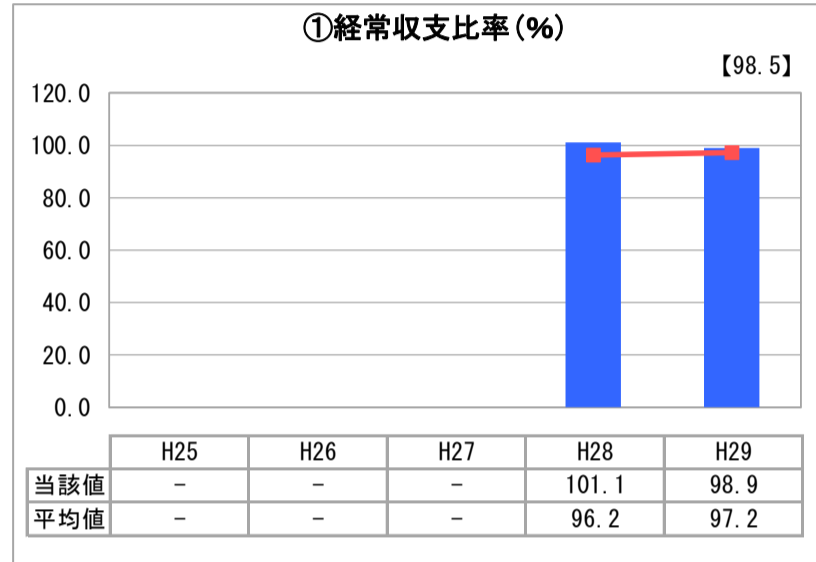
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

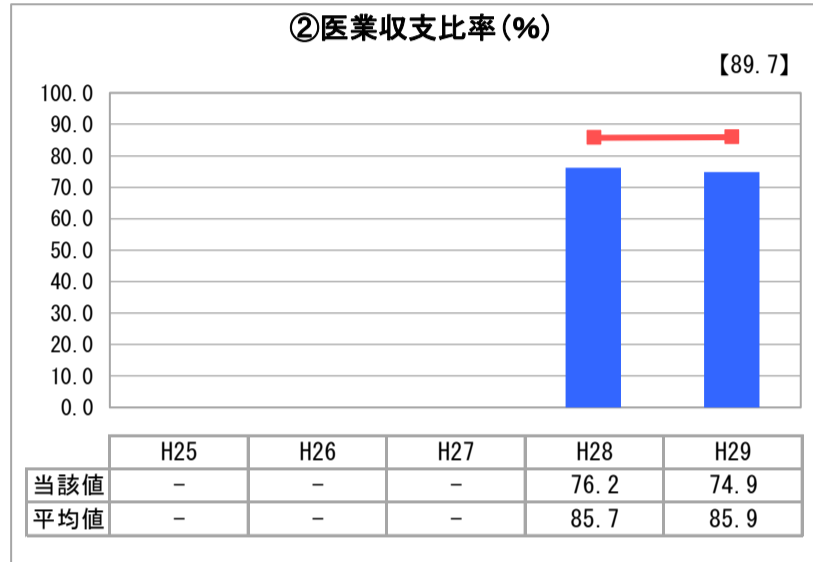
許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
291	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	291
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
258	-	258

グラフ凡例	
■	当該病院値（当該値）
—	類似病院平均値（平均値）
【】	平成29年度全国平均

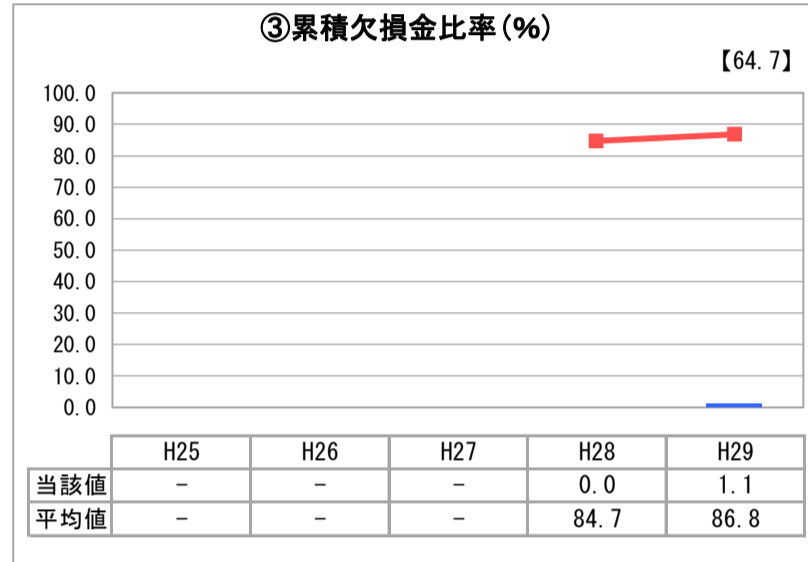
1. 経営の健全性・効率性



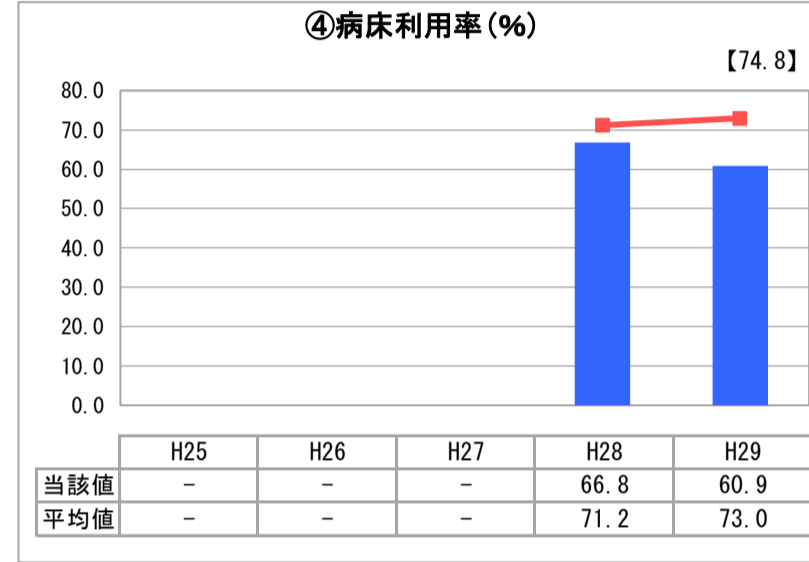
「経常損益」



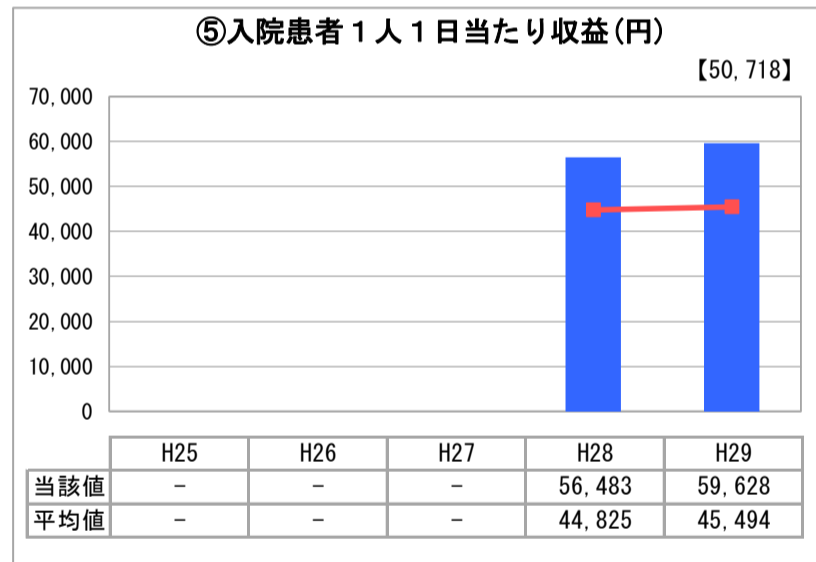
「医業損益」



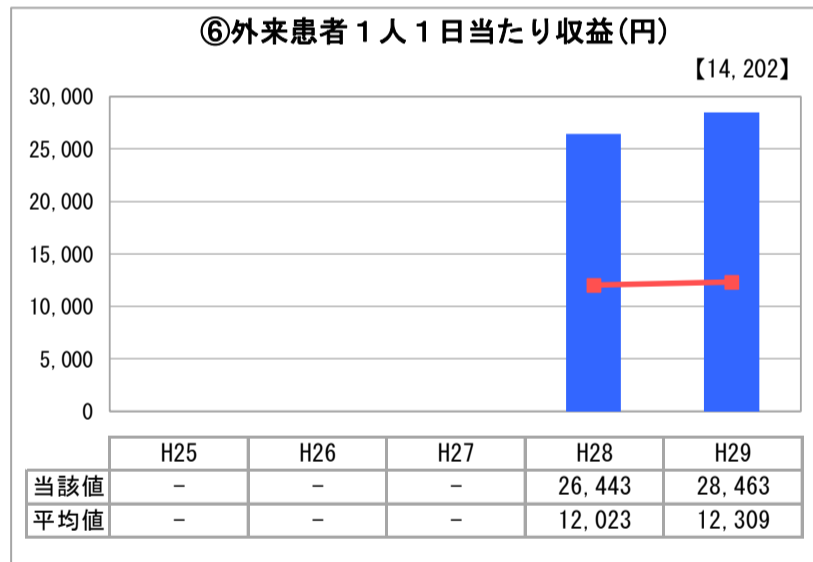
「累積欠損」



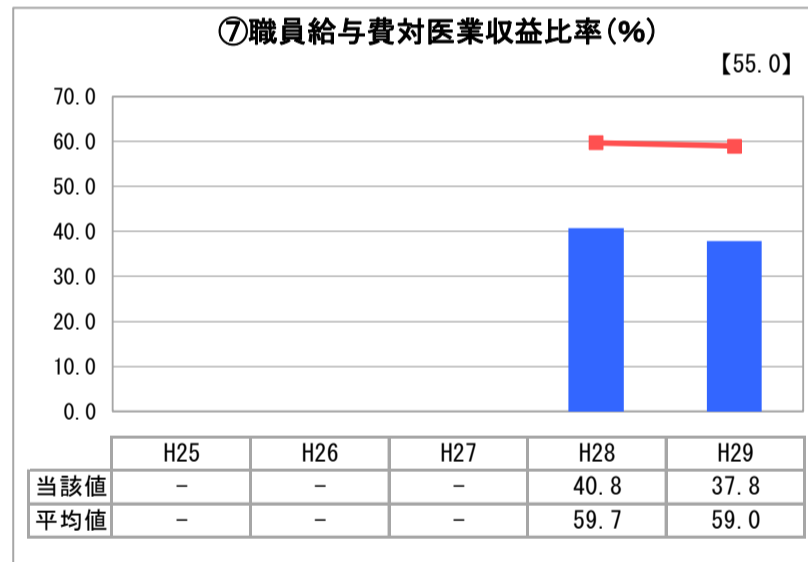
「施設の効率性」



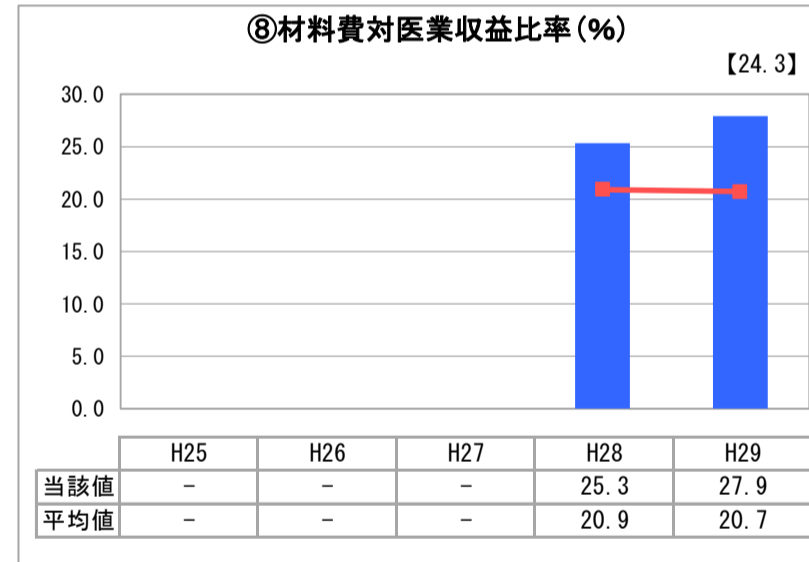
「収益の効率性①」



「収益の効率性②」

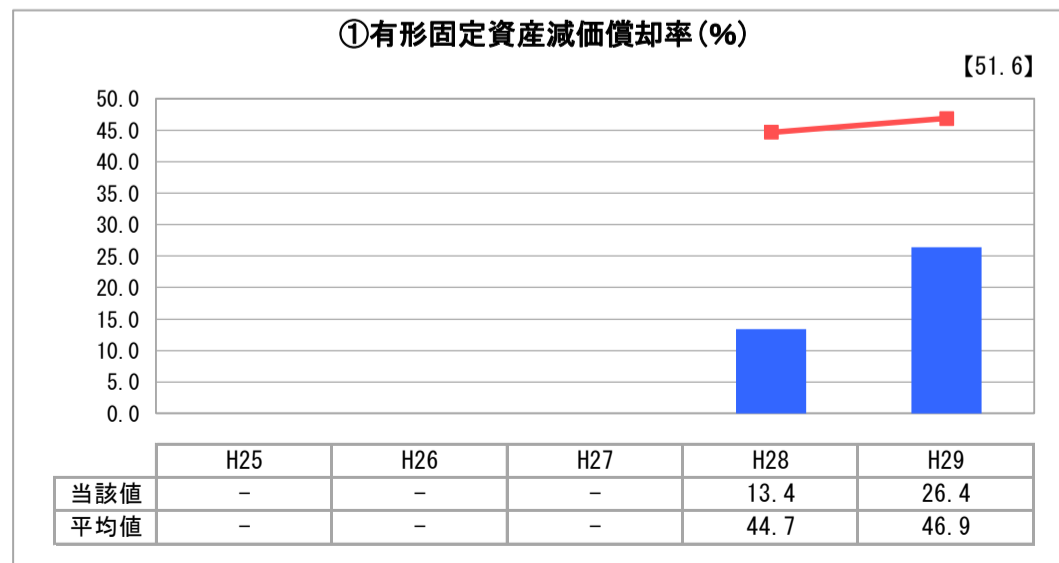


「費用の効率性①」

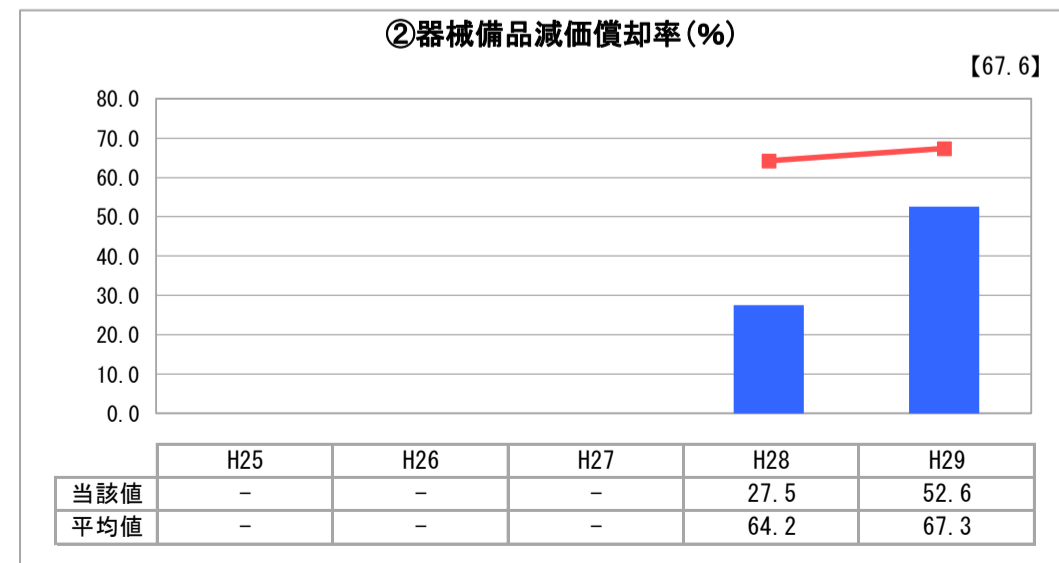


「費用の効率性②」

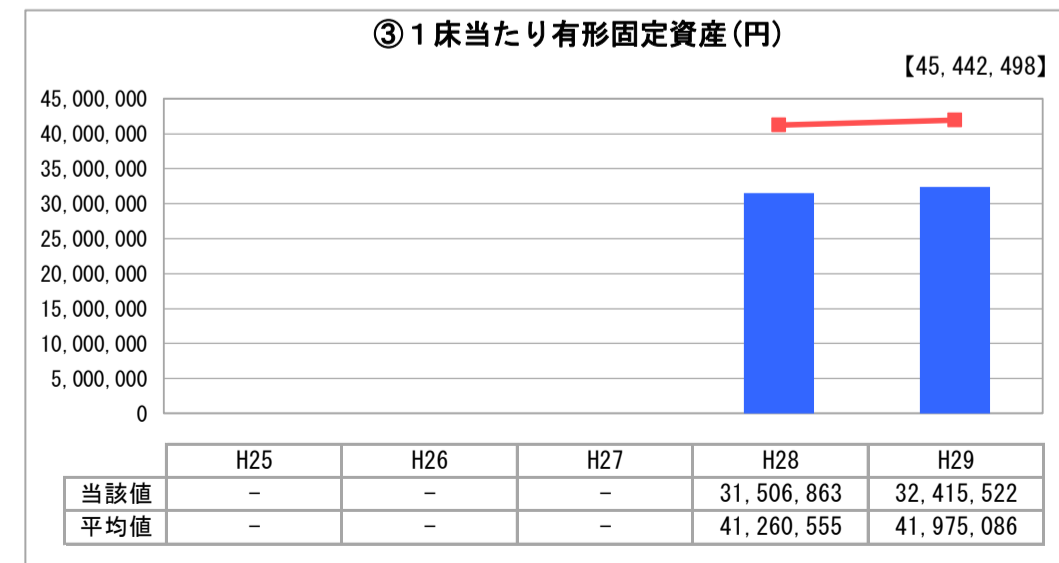
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「器械備品の減価償却の状況」



「建設投資の状況」

I 地域において担っている役割

当センターは、県民が求める高度で専門的ながん医療を安定的に提供するとともに、都道府県がん診療連携拠点病院として県内における医療水準の向上・均てん化を推進するなど、公的使命を果たしながら県民の健康を確保及び増進する役割を担っている。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率、③ 累積欠損金比率
経常収支比率は100%を下回ったが、累積欠損金比率はわずかであり、経営の健全性に支障はない。

② 医業収支比率、④ 病床利用率
がん医療が入院中心から外来中心にシフトしているため、病床利用率が減少した。外来患者数は増加しており外来収益は良好であるが、医業収支比率が類似病院の平均を下回っているため、入院患者を確保する等により医業収益の増加に努める必要がある。

⑤ ⑥ 患者1人1日あたり収益
患者単価は、高額医薬品の使用量の増に伴い、類似病院の平均を上回っている。なお、同じ理由で、⑧ 材料費対医業収益比率は増加傾向にある。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率、② 器械備品減価償却率
平成28年度に地方独立行政法人化したため減価償却率は低水準にあるが、老朽化は進行しているため、定期的な設備等点検の結果に基づき計画的に更新を実施し、適切な維持管理に努めている。

③ 1床当たり有形固定資産
建築年数の経過に伴い、類似病院の平均を下回っている。

全体総括

平成29年度は、入院患者数の減少等により経常収支が黒字から赤字に転じた。がん治療の均てん化が進んでいることや、入院中心から外来中心にシフトしていること等から、入院患者数が伸び悩んでいる状況ではあるが、医師の柔軟な採用等、地方独立行政法人の特長を活かした取組により、入院患者を確保し、経営改善に努める必要がある。

※ 「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。